

第1号議案 2011（平成23）年度 事業報告書

1. 公益目的事業

1.1 自然保護事業

1.1.1 里山保全

- (1) 荒れた里山である針葉樹人工林の間伐や竹が侵入・拡大した森林の竹の除去作業をはじめ、地域における里山保全活動を下記グループを主体に行った。これらの地域グループや協会外の里山保全活動団体とのネットワーク組織化、連携に努めた。
太子町葉室里山クラブ／太子人工林間伐隊／妙見里山倶楽部／野崎・飯盛の山と緑を保全する会／紫金山みどりの会／穂谷里山保全チーム
- (2) このうち太子人工林間伐隊では、NICE（日本国際ワークキャンプセンター）が募集した国内外の学生などのボランティア6人を8月13日～20日にわたって、提携団体である富田林の自然を守る会と協働して受け入れ、里山保全作業を通じて国際交流を図った。
- (3) 里山委員会で、能勢町における里山のモデルの計画づくりの一環として、長谷の私有林で里山林（低木林）施業に取り組んだ。
- (4) 3月に、里山委員会主催で、生駒・金剛山系の里山保全グループによる「第2回 生駒山系里山サミット」を開催した。参加は9グループ、32名だった。

1.1.2 里地・里山保全活動支援

- (1) 和泉市信太山の草地・湿地をスポーツ施設建設から保護する地元活動団体である「信太山に里山自然公園を求める会」に継続して参画し、里山自然公園などをアピールするリーフレット作成などで支援した。
- (2) 堺市鉢ヶ峯の里山林における土砂処分地建設に反対している地元団体を支援した。

1.1.3 自然生態系の経常的保全運動

淀川水系の他のダム問題については引き続き、「脱ダムネット関西」などにより国土交通省・近畿地方整備局へ意見発言を行い、反対運動に取り組んだ。
第10回脱ダムネット関西の集いを4月9日に開催した（ダム問題研究会）。

1.1.4 共生の森づくり

堺市臨海部の堺第7-3区産業廃棄物処分場で大阪府が実施している植樹などの事業「共生の森づくり活動協働事業」について、2008年度より継続して、保全協会が加盟している（特活）大阪府民環境会議の事業受託に協力し、植樹や苗づくり、植栽木の生長調査などに取り組んだ。従来のスタッフ派遣にとどまらず、協会としての共生の森チームづくりも進めた。

1.1.5 ビオトープ（野生生物の生息空間）づくり

都市圏における自然ふれあい活動、自然環境の回復創出を進めるため、三菱UFJ環境財団の助成により、小学校と保育園で水辺のビオトープづくりを実施した。また、小学校においてその活用による自然環境学習に取り組んだ。

1.2 調査研究事業

1.2.1 野生シカ調査

今年度は第2期シカ保護管理計画5年目となった。野生シカ調査会は、大阪における野生動物保護管理を「生息地管理」、「個体数管理」、「被害管理」の視点から、今期も継続して地域個体群の調査、生息域、他地域との回廊確保、農林業被害、森林生態系への影響などの調査を通じ、健全な生息のバランスを考察した。大阪府のモニタリング調査も継続して受託し実施した。

1.2.2 高槻本山寺周辺域の森林保全

高槻市の大阪府自然環境保全地域の特別地区である本山寺のモミ・ツガ・アカガシ林がシカによる採食圧を受けているため、その防除、調査、保全に取り組んだ。

11月に二つ目の植生保護柵を作った。3月31日に2回目の報告集会を行った。

1.2.3 堺南部丘陵（東西道路）植生調査

鉢ヶ峯地域の「東西道路」延伸事業が本年度も継続され、鉢ヶ峯の自然を守る会、大阪府、堺市、保全協会で構成した「堺南部の里山に配慮した農道づくり検討会」に理事2名が引き続き出席。道路法面緑化調査（大阪府委託事業）の経過を報告し、緑化の方針や濁水処理、カスミサンショウウオ保護などについて対策等を提案した。行政や地元の農業などの団体、同会、保全協会などで構成する「堺南部丘陵の地域振興と自然環境を考える会」にも理事ら2名が出席した。

1.2.4 万博記念公園野生生物生息調査

万博記念公園の自然環境の現況を把握するとともに都市緑地の自然をより豊かにしていくため、(独)日本万国博覧会記念機構より引き続き調査業務を受託し、園内のほ乳類や鳥類、昆虫類など生物相の調査を行い、また生物の見分け方などを学ぶ人材養成講座なども実施した。

1.2.5 環境省モニタリングサイト1000里地調査

(1) 2005年より枚方市・穂谷で実施されているモニタリングサイト1000里地調査では、環境省より本事業を受託している(財)日本自然保護協会の依頼を受け、穂谷調査の調査員・調査分野間の連絡調整、会合の開催、地元との交流など、地域コーディネーター業務に取り組んでおり、これを継続実施した。

(2) 下記のモニ1000準備サイトで引き続き調査を実施した。

鉢ヶ峯：堺自然観察会（植物相）／紫金山公園：吹田自然観察会（植物相・鳥類・チョウ類）

枚岡公園：枚岡ネイチャークラブ（植物相・人為的インパクト）は、公園管理の植物の刈り込みにより調査が実施できなかった。

保全協会以外のサイトは次の通り＝千里緑地第2区：島熊山の雑木林を守る会（植物相）／富田林奥の谷：富田林の自然を守る会（植物相、チョウ類）／石川河川公園自然ゾーン：石川自然クラブ（カヤネズミ）

1.2.6 特定自然保護推進資金活動

協会内のグループ・会員の自然保護活動を進めるため設けた特定自然保護活動推進資金制度を継続し、申請のあった事業5件を審査し以下の事業を採択し実施した。

- ①高槻本山寺周辺域の森林保全
- ②信太山丘陵の自然環境保全の普及と里山自然公園化
- ③太子人工林間伐隊・間伐地の地図作り

1.2.7 里山一斉調査

大阪府内などの里山に定めたルートを歩き、哺乳類のフィールドサイン、植物、野鳥などを観察調査するもので、第29回となり、府内13コースと府外1コースで実施。延べ247名が参加、7月に報告書を作成、配布し、「都市と自然」に概略を報告した。

1.2.8 土地トラスト活動に関する調査・環境整備

全国に広がる放置山林は、相続や宅地化など開発圧力によって安易に売却されて消失しており、こうした里地里山や残存緑地の自然を開発から予防的に保全する土地トラスト活動を広げていくため、その手法に関する調査や仕組みづくりに取り組んだ。その結果をまとめた「自然保護トラストマニュアル」を作成した。

1.2.9 その他の自然保護・調査研究

- (1)タンポポ調査2010のまとめを行った。
- (2)水生生物調査研究会の活動を継続した。
- (3)「錦織公園自然調査研究会」を「都市公園自然調査研究会（仮称）」と改称し、生物多様性保全の観点から公園のあり方について調査・研究した。
- (4)里山指標生物調査 里山の指標となる生物100種のリストを作成し、それらの生息状況の調査を地域自然観察会・里山関連グループの協力のもとに実施した。
- (5)会員が活動する地域における各種調査や活動の記録、自然環境保全に関する知見発表の場を提供するため、「ネイチャーおおさか・スタディファイル NO.5」CD-Rの発刊作業を進めた。
- (6)環境倫理に関する意見交換を行う「環境倫理談話会」を開催した。
- (7)受託事業としては、吹田市自然環境調査（吹田の動植物調査）事業を前年度より継続して実施し報告書を提出、また2か年度で行う枚方市自然環境調査（枚方ふるさといきもの調査）事業の初年度事業に取り組んだ。

1.3 普及・啓発事業

1.3.1 人材養成講座の開催

保全活動のための人材養成および一般市民への自然保護思想の普及のため、各種講座を開催した。

- (1)第36期ナチュラリスト入門講座…9月～4月に実施。計25名が受講し、11名が修了した。
- (2)第21回自然観察インストラクター養成講座…4月～10月に実施し、17名が受講し、13名が修了した。
- (3)第18回自然かんさつ塾…4月～6月（春期）と10～2月（秋期）に実施した。春期は25名が受講、修了した。秋期は25名が受講、修了した。

- (4) 第9期自然環境市民大学…4月～3月に開講、16名が受講し、14名が修了した。
- (5) 里山 step-up 研修…これからの里山保全活動に必要な知識を学ぶ講義スタイルの研修「近畿における里山の資源利用と植生の変遷」を3月6日に開いた。参加は35名。
- (6) 環境教育プログラムの指導者養成を目的とした「プロジェクト・ワイルド エducーター養成講習会（本編・水辺編）」を11月（第5回）と2月（第6回）に開講。それぞれ9名、12名が受講、修了した。また「プロジェクト・ワイルド エducーター養成講習会（サイエンス&シビックス編）」を6月～12月に開講し、5名が受講、修了した。

1.3.2 自然観察会の開催

地域観察会およびテーマ観察会を、各グループにて開催した。

- (1) 百樹会…近畿各地で初心者向けの樹木観察会を開催。
- (2) 堺自然観察会…鉢ヶ峯等、堺市内で開催。
- (3) 吹田自然観察会…紫金山等、吹田市内で開催。
- (4) 服部緑地自然を楽しむ会…服部緑地公園で開催。
- (5) えぼしがた公園自然観察会…烏帽子形公園（河内長野市）等で開催。
- (6) 枚岡ネイチャークラブ…枚岡公園、東大阪市、生駒山系で開催。
- (7) 淀川自然観察会…十三干潟等、淀川河川敷で開催。
- (8) 海の観察会…大阪湾沿岸の磯や干潟で海岸生物の観察会を開催。
- (9) みんなでかんさつ隊…鶴見緑地等、大阪市内を中心に開催。
- (10) 枚方しぜんハイキング…穂谷等、枚方市内で開催。
- (11) 大和川自然観察会…大和川河川敷で開催。
- (12) 泉北自然を楽しむ会…新檜尾公園等、泉北地域で開催。
- (13) 茨木・高槻自然に親しむ会…茨木市、高槻市各地で開催。
- (14) 堺2区自然観察会…「堺2区自然共生型護岸」での自然観察会を国交省神戸技調、大阪湾見守りネットと共催で開催。
- (15) 「空の会」自然観察会

1.3.3 大型行事、エコツアー他

- (1) 7月～8月に府内一斉「みんなでセミ羽化ウォッチング in おおさか」を実施した。セミの羽化の観察会を実施する各グループの相互連携を図るとともに、研修、マニュアル等により、個人リーダーの参加を促進して、市民への浸透を図った。
- (2) 10月～11月に第19回府内一斉「どんぐりまつり」を実施した。
- (3) 和歌山県千里海岸での1泊2日のウミガメ観察会を実施した。
- (4) 自然保護の活動地や自然保護を必要とする地域を対象にエコツアーを実施した。
- (5) 今年度は「チリメンモンスター探し（ちりめんじゃこに混入している海の生きもの探し）」の体験学習指導に力を入れ、普及に努めた。

1.3.4 主催講座修了生の会の運営

主催講座の修了生の会を運営し、研修会や公開観察会等を実施した。

- (1) NOB: ナチュラリスト入門講座の修了生の会。ナチュラリスト入門講座を運営するほか、様々な取り組みを行った。
- (2) そよごの会：自然観察インストラクター養成講座の修了生の会。観察会リーダーのための研修、情報交換等を行った。
- (3) 空の会：自然環境市民大学の修了生の会。植物部会、野鳥部会、昆虫部会、工作部会を運営し、様々な行事等を行った。

- (4) プロジェクト・ワイルド研究会：プロジェクト・ワイルド講習会の修了生の会。教育プログラムのファシリテーターの人材育成のための取り組みを行った。

1.3.5 普及・啓発事業活性化のための取り組み

- (1) 主催講座および各修了生の会の相互連携、活性化のため、3 ヶ月に 1 回の「主催講座連携検討会議」を実施した。
- (2) 観察会グループ同士の相互連携・活性化のため、3 ヶ月に 1 回の「観察会連絡会」を実施した。

1.3.6 シンポジウムの開催

- (1) 「環境倫理シンポジウムー自然を愛するとはどういうことか？ー」を大阪府立大学と共催で 9 月 17 日に開催した。参加者は 82 人。
- (2) シンポジウム「草地生態系の保全」を 2 月 18 日にアネックスパル法円坂で開催した。参加者は 79 人だった。

1.3.7 緑のカーテンづくり

城東区が 2009 年度から実施している壁面緑化によるヒートアイランド対策・環境改善事業「区民協働による緑のカーテンづくり」について、09 年度より継続して、保全協会が加盟している（特活）大阪府民環境会議の事業受託に協力し、苗の配布や緑のカーテンづくりの講習会、普及啓発などに取り組んだ。

1.3.8 講師・スタッフ派遣事業

下記の通り、行政やその関係機関、民間団体などから依頼される事業に講師・スタッフを派遣した。今年度は「チリメンモンスター探し」の対応を強化。新規企画として「図書館巡回展示」も実施した。

- ・大阪市教育振興公社いきいき体験プログラム・デリバリー事業、深北緑地自然ふれあいフェスティバル、東成区自然ふれあいフェスタ、シニア自然カレッジ、大阪いずみ市民生協里山活動等、城北川フェスティバル、生き生き地球館・エコ縁日、大阪市立自然史博物館「OCEAN!展」、その他環境 NPO などの自然観察・体験指導など

1.3.9 会報誌「都市と自然」の発行

保全協会が近畿における自然保護運動のセンターであるという位置づけのもと、保全協会内外に送付し自然保護・保全運動の伝達を重視した。

本年度 4 月号より A4 判・フルカラーにリニューアルした。文字数を適正化し、写真・図版を多用しビジュアル化を進めた。また、協会会員の動きが見えるような誌面作りを心がけ、投稿欄を設けた。表紙写真は「里海の生きものたち」として固定した撮影者による新連載を展開した。

1.3.10 ホームページ（HP）の運営

- (1) 協会の広報メディアとして、HP 各ページの構造・外見・内容の改善・充実を継続した。HP 制作会社と提携し昨年度から作業を続けている HP 管理システム（CMS）による HP のリニューアルを完成し、新たな運営方法を検討して軌道に乗せた。また、パソコン利用技術の学習会等で HP 技術をそなえた人材の参加を呼びかけ、HP 委員会の充実をはかった。
- (2) 各地での活動をビデオ撮影して短くまとめ、動画配信により HP を充実させた。

- (3)『都市と自然』の記事の一部をHPにも掲載するなど、直近の保全活動に関する情報発信機能を強めた。

1.3.11 協会設立 35 周年記念事業

- (1)協会などの自然保護活動を記録・共有する「アーカイブス」を立ち上げた。
(2)35 周年記念記事を「都市と自然」に掲載した。
(3)「みんなでセミ羽化ウォッチング in おおさか」(1.3.3)を本事業として実施した。

2. 組織・運営の充実

2.1.1 組織・法人機能の充実

公益社団に相応しい法人づくりのため組織運営・会計処理など執行態勢の強化に務めた。

(1)理事会（理事）の4部体制・事務局

自然保護・調査研究／普及／事業／総務・編集の各部については引き続き、理事会・各部が協会方針の具体化に努めた。

(2)会員・グループなどの交流、連携

生物多様性保全への関心の高まりなどから協会への社会的要請に対応する必要性が高まっており、理事会や各活動グループ、会員、事務局、他団体などの連携を推進するため、主催講座連携検討会議や観察会連絡会（1.3.5 参照）を例とした交流・協働の取り組みを強化した。

2.1.2 公益法人化

(1)定款変更

通常総会第5号議案により、公益社団法人大阪自然環境保全協会の変更定款案を提案、承認した。

(2)公益社団法人への移行認定

移行認定申請は2月8日、大阪府公益認定等委員会へ電子申請にて行い、委員会は2月21日に大阪府知事に移行認定を答申、3月22日付で認定された。

4月1日（2012年）、公益社団法人大阪自然環境保全協会の設立登記の予定。

2.1.3 ネットワーク組織への加盟・活動

本年度も引き続きNPO法人大阪府民環境会議（OPEN）に加盟し、OPENが受託した大阪府「共生の森づくり活動協働事業」や城東区「緑のカーテンづくり事業」の推進役となり、行政はもちろん、各事業に参画・関係している地域組織や企業、団体などとの協働・交流を進めることができた。

<会員数の変動>（各年3月31日現在在籍、家族会員除く）

会員別／年	2009年	2010年	2011年	2012年
正会員	331	296	299	281
協力会員	631	626	597	592
合計	961	922	896	873

会員は依然減少が続いている。会員の高齢化などによる退会が目立っているが、3年間で90名近くも減少しており、総合的継続的な対策が必要になっている。

以上